プログラム2 シンポジウム『オンラインを活用した福祉教育実践』

内容 内容 事例①VTR ・コロナ禍の新たな福祉教育のプログラムの内容を紹介します。 コロナ禍の新たな福祉教育 VTR は「視覚障がい」をテーマにしたミニ体験とオンライン交流の (ミニ体験・オンライン交流) 大野南小4年 様子です。 ◆担任アンケート(良かった点・不安に感じた点) ○良かったこと 祖任の先生より 大変だった・不安を感じたこと(旧任の先生より) ●直接交流できない中、子どもたちの疑問や質問に答えていただき、福祉に関する 興味を高めたり、理解を深めたりすること 設定やオンラインが途中で止まってしまうこ とが大変だった。 ●時間に限りがあるため子どもたちが聞きたいことを十分に質問する時間が少なかった。 ができて良かった。 対面ではなかったので、子どもたちにとってテレビ画面の向こうの世界のことになって 話を聞きながらたくさんメモをとる子 が多く、意欲が高くなっていると感じた。 いないか・・・ 事例②VTR ①高齢者施設編(大野東小4年×ラ・ナシカ乙金) オンライン実践例 毎年、施設見学や運動会の来賓による交流をしていた。面会や外 ①高齢者施設編 ②公民館編 出制限もある中、2 年ぶりにオンラインで交流をしました。後日、数 ③ボランティアセンター編 人の子どもたちが施設を尋ねて来ました。 ②公民館編(月の浦小3年×月の浦区福祉推進委員会) 公民館や地域住民にとって、まだまだオンラインは馴染みがない。 公民館のネット環境やリハーサルを重ね、初めて地域の方をゲストテ ィーチャーに招き授業を実施しました。 ③ボランティアセンター編(大野小4年×ボランティアセンター) 「校外学習のような学習を…」ということで中継をつなぎ建物を見 学し、切手収集ボランティアの説明を受ける。後日、学校で切手ボ ランティア体験をし、センターに持ってきてくれました。 ◆担任アンケート(子どもの変化・やってみたいこと) 子どもたちの変化 (単年の先生より) やってみたい! こと(担任の先生より) ・ボランティアや障がいがある方が実際に活動している様子をLIVE配信をしたり、大野城市のユニバーサルデザインがある場所から中継してほしい。 学習後に、子どもたちがラ・ナシカ乙金に自 分から行くなど意欲的に学習に取り組むこと ができた。 いてきた。 ・複数をコメント・わざわざを残る強いに来てくれて輸しかった! 気軽に立ち寄ってくれるようになってはしい。 デレビで、福祉のことが放送されていたら 報告してくれた子や、交流会をとおして人前に 出て発表をすることに積極性が出てきた子が いた。 (遠方など)物理的な距離のため、今までは 交流することができなかった人とも交流して